

**多世代がふれあう
彩り豊かな住みよいまち 上多度**



上多度地域自治町民会議

目次

序章 計画策定の趣旨	1
1. 計画の経過と見直し・計画づくり	1
2. 計画づくりの進め方	1
3. 計画のねらい	2
(1) 計画のねらいと視点	2
(2) 計画の性格とポイント	2
4. 計画策定の経過	3
第1章 上多度地域の概況	4
1-1 上多度地域の概要	4
(1) 位置と地形	4
(2) 歴史・文化	6
1-2 人口の動向	7
1-3 アンケート調査結果	10
(1) 役員アンケート調査の結果	10
(2) PTAアンケート調査の結果	12
第2章 上多度地域の主要課題	14
(1) 計画の取組みの進捗状況	14
(2) 取組みの分野別課題	15
(3) 上多度地域の主要課題	16
第3章 上多度地域の理念と将来像	17
3-1 計画期間	17
3-2 計画の理念	17
3-3 上多度地域の将来像	17
第4章 3つの基本方針と横断的な方針	18
第5章 取組みの目標と内容	19
5-1 安全な暮らしを築き美しい地域づくり<総務安心安全分野>	19
5-1-1 安全に暮らすことができる日ごろの活動	19
(1) 防災・減災学習の充実	19
(2) 防災訓練の充実	20
(3) 人材確保や防災体制の確立	20
(4) 交通安全・防犯対策の充実	20
5-1-2 自然環境・地域環境の保全と向上	20
(1) 鳥獣害対策の充実	20
(2) ポイ捨て防止、草刈りによる美化	20

5-2	互いに役立ち健やかに暮らす地域づくり	21
5-2-1	高齢者やみんなの生きがいつくり	21
(1)	町民運動会、スポーツの推進	21
(2)	三世代交流の推進	21
5-2-2	身近なふれあいと支え合いの充実	22
(1)	高齢者のつながりづくり	22
(2)	高齢者の生活や自立支援	22
5-3	ふるさとを愛し伸びやかに育つ地域づくり	22
5-3-1	子育て・子育て環境の充実	23
(1)	子育ての支援	23
(2)	子どもの遊びと集いの場の確保	23
5-3-2	ふるさとを知り愛着を高める活動	23
(1)	ふるさと学習の充実	23
(2)	子どもが楽しめる機会の充実	23
5-4	各分野が手をつないだ地域づくり	24
5-4-1	住みやすい環境の維持と若者の定住・関わりづくり	24
第6章	計画推進の工夫	25
6-1	町との協働の推進 : 提案例	25
6-2	計画の進捗管理	26
(1)	計画の周知	26
(2)	計画の定期的な振り返りと修正	26
6-3	地域自治町民会議の体制の強化	26

序章 計画策定の趣旨

序章 計画策定の趣旨

1. 計画の経過と見直し・計画づくり

今日では、全国的な傾向と同じように養老町、そして上多度地域も少子高齢化と人口減少が進んでいます。このため、地域が主体となって「まち・ひと・しごと」づくりを一層進めて、快適に暮らすための地域の持続性を高めることが求められます。

私たちの上多度地域は、町内では最も早く平成 27（2015）年に上多度地域自治町民会議を設立しました。

これに伴い上多度地域では「上多度地域まちづくり計画」（平成 28（2016）～平成 37（2025）年度）を策定して、「多世代が楽しく暮らせる住みよいまち」を目指してみんなで活動を進めてきました。計画に基づいて、上多度地域は支え合いのまちづくりを進め、活力があり健康で暮らすことができる環境が形成されつつあります。

一方、この 10 年間に社会経済情勢が変化し、また、新型コロナウイルスの感染拡大で社会が閉塞して、アフターコロナの新たなまちづくりが必要になってきました。さらに上多度地域は、少子高齢化・人口減少が進んできており、高齢者が健やかに暮らすための取組み、若者が住み続けることができる環境づくりなどが、より切実な課題となってきました。

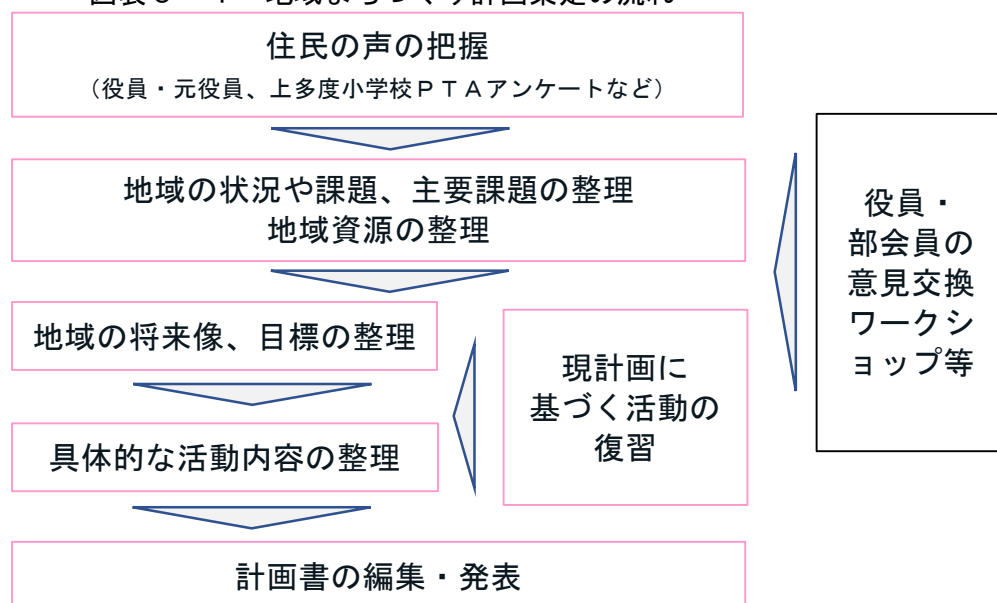
そこで、次の 5 年、あるいは 10 年先を展望して、より良いまちづくりを一層進めるために新たな「上多度地域まちづくり計画」を策定しました。

※この計画に基づいた取組みを毎年度の事業計画に反映します。

2. 計画づくりの進め方

チーム「上多度」として、役員・部会員が地域の課題や方向について住民の意見を把握しながら、ワークショップなどにより部会員が意見交換して計画を策定しました（図表 0－1）。

図表 0－1 地域まちづくり計画策定の流れ



3. 計画のねらい

(1) 計画のねらいと視点

今までのまちづくりの成果を生かすとともに計画を進めることにより、さらに幸せで豊かに暮らし続けることができるようにします。

○少子高齢化に対応した地域づくり・まちづくりを進めて、難局を乗り越えながら快適に暮らし続けることができる地域を継承します。

○三世代が協力し合い、いきいきとした地域を目指して、アフターコロナの社会の中での住民同士のふれあいの再生や地域内外の新しい交流を起こします。

○住民同士が尊重しあい、力を出し合って、2015年に世界で合意されたSDGs（持続可能な開発目標）※の「誰一人取り残さない」という理念も生かして、上多度地域の良さや価値を高めます（図表0-2）。

※SDGs（Sustainable Development Goals）：持続可能な開発目標

2015年9月に国連で決められた2030年までの指針で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指したものです。

図表0-2 SDGsの17の目標



(2) 計画の性格とポイント

上多度地域まちづくり計画は、地域が主体となって策定した計画で、地域の目指すべき姿を描き、そのために具体的にに取り組む活動を示したものです。

このため、計画は地域住民がお互いに責任をもって活動に取り組み、また、個性豊かで魅力あるまちづくりを進める指針とします。

🌀 ポイント

＊地域自治町民会議が事業計画を立案する際の基本的な考え方や根拠

＊住民が力を合わせてまちづくりに取り組んでいく指針

＊地域の特性を生かした個性あるまちづくりのビジョン

4. 計画策定の経過

【令和7年】

- 4～5月 計画づくりの進め方についての検討（事務局）
- 6月24日（火） 役員会
 - ・計画づくりの進め方、計画の意義とねらいの確認
 - ・アンケート調査の実施について：(1)現・元役員、(2)PTAを対象 6/24（火）配布
- 8月19日（火） 第5回役員会、追加開催9月3日（水）
 - ・アンケート等の結果、地域を取り巻く課題、それを踏まえた将来像と方針について
 - ・現計画の復習、合同部会で考える主要検討テーマの検討
- 9月20日（土） 第1回 まちづくり検討委員会 【合同部会】
 - ・現計画の振り返り結果の確認と主要課題、新たな活動項目の意見交換
- 10月11日（土） 第2回 まちづくり検討委員会
 - ・新計画の構成（案）について
- 11月22日（土） 第3回 まちづくり検討委員会
 - ・新計画案について

【令和8年】

- 3月
 - ・計画案の確定
- 4月
 - ・令和8年度総会において計画の公表・広報

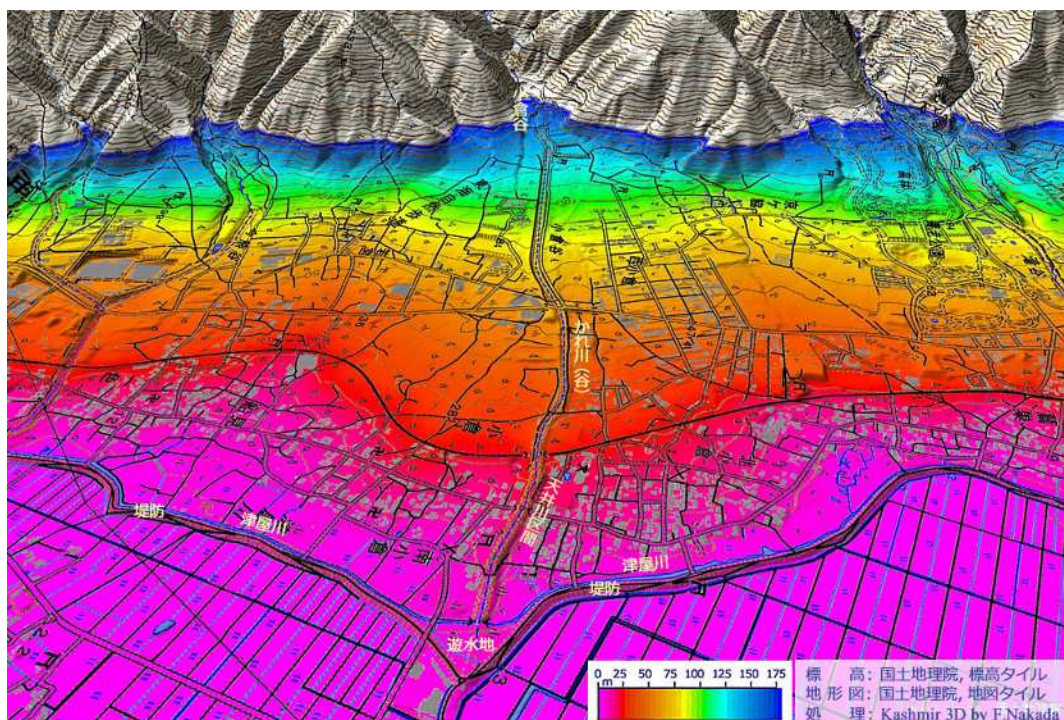


1－1 上多度地域の概要

(1) 位置と地形

- 上多度地域は、養老町の南西に位置しており、養老山地の東部山麓に形成された小倉谷の扇状地に位置しています（図表 1－1）。
- 地域は山麓から西へとなだらかに下り、森林部から標高が低くなるにしたがって畑地、低湿地の水田地帯が広がります。山麓からは幾筋もの谷があり、かれ川が遊水池を経て北から南に流れる津屋川につながります。
- このため、地域では養老山地からの土石流の対策や、低湿地の浸水などの水害対策が課題になってきました（図表 1－2）。
- 交通は古くは伊勢街道が旧集落を通り、山麓沿いに岐阜県道 56 号南濃関ヶ原線、養老鉄道が南北の軸を形成しています。鉄道は養老駅が地域の最寄りであり、また整備が進んでいる東海環状自動車道養老インターまで至近距離となっています。

図表 1－1 上多度地域・周辺の地形（西向き・右が北）



(出典) https://www.web-gis.jp/GM1000/GM_Red1/GM_Red1-135.html

図表 1－2 上多度地域ハザードマップ（安心安全環境部会）



（２）歴史・文化

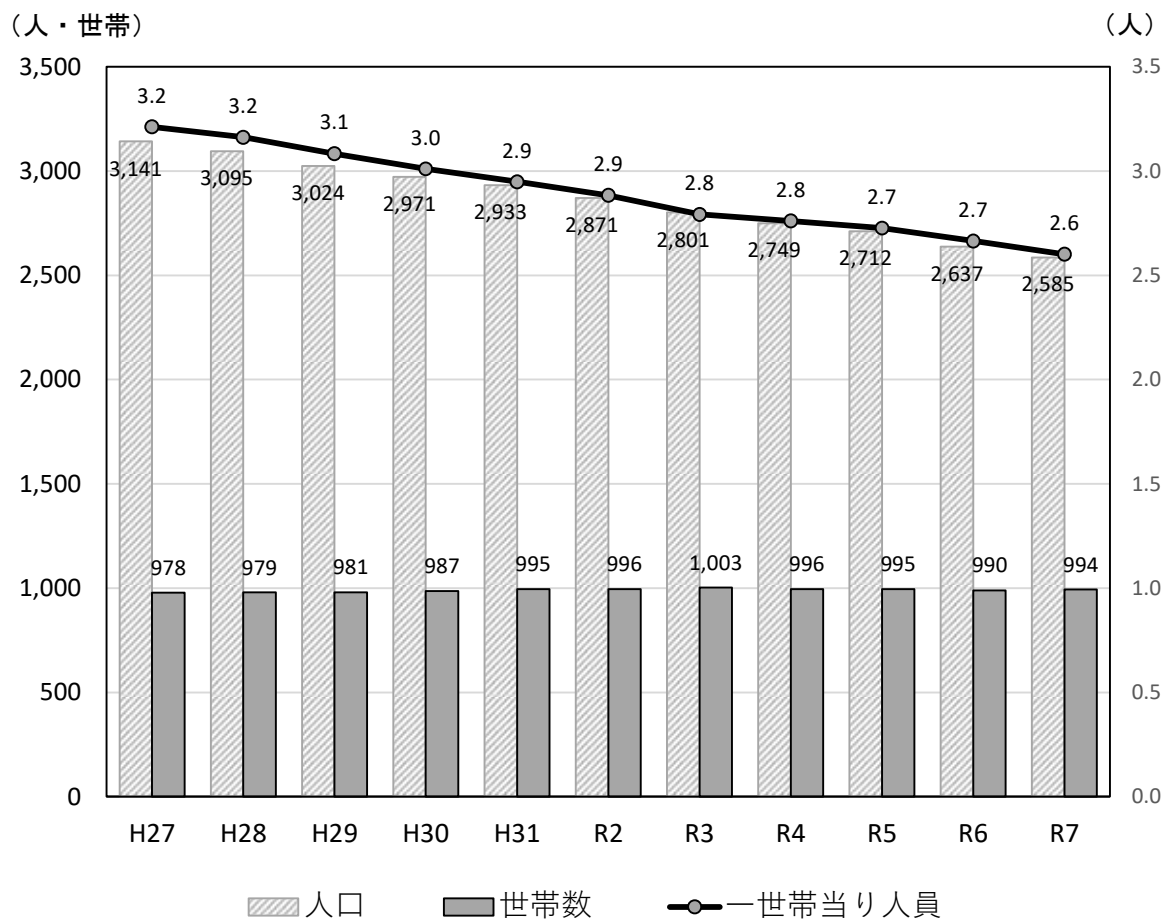
- 上多度地域は、1890 年（明治 22 年）に合併して上多度村となり、その後、1954 年（昭和 29 年）に養老町として合併しました。
- 上多度小学校の歴史も古く、明治に開校した学校が合併して、1874 年（明治 6 年）上多度尋常小学校と改称されました。当時の学校は昭和東南海地震で被害を受け、その後、現在地で整備され上多度村上多度小学校を経て町立小学校となりました。
- 郷土の先人では、明治になって初めての横綱鬼面山谷五郎（鷲巢）、大正時代に養老鉄道を整備した立川勇次郎（大垣市出身）、上多度小学校が母校で第二次世界大戦後の教科書の発行に尽力した水谷三郎（田）などを輩出しました（「養老町の歴史文化資源」）。
- また、上多度地域と周辺には、旧伊勢街道沿いや養老公園に、赤岩神社などの寺社や史蹟が豊富にあり、子ども神楽なども催されてきました。



1-2 人口の動向

- 上多度地域の人口は2,585人、世帯数は994世帯（令和7年・2025年）となっています（図表1-3）。
- 平成27年（2015年）から現在にかけての10年間で、世帯数は約990世帯を維持していますが、人口は約18%減少しています。
- 地域の少子高齢化は進んでおり、高齢化率は約41%にも達しており、その半数以上が75歳の後期高齢者です。

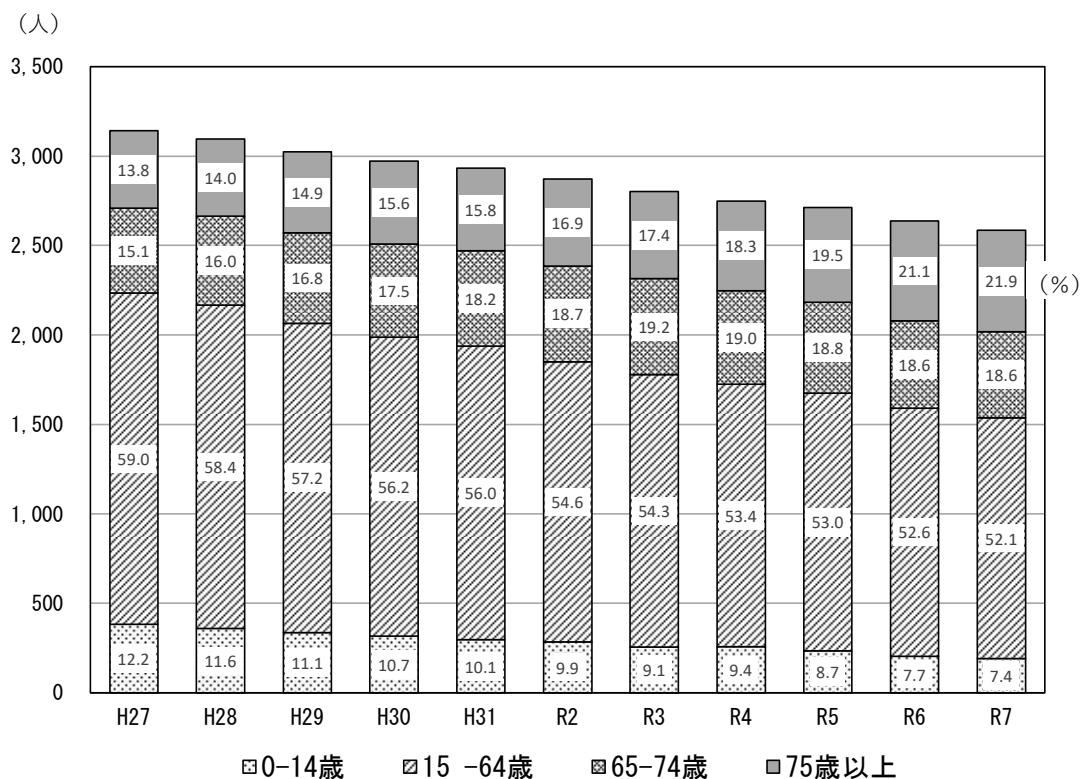
図表1-3 上多度地域の人口と世帯数の推移



（資料）住民基本台帳

○区の令和 7 年の人口では約 50～470 人、世帯数では約 20～180 世帯と、規模の差が大きくなっています（図表 1－4）。

図表 1－4 年齢別人口とその割合の推移



○平成 27 年から令和 7 年までの 10 年間の人口は軒並み減少しており、増加率では 30%以上減った区もあります。世帯数は 10%以上増加した区もありますが、多くは減少または横ばいです（図表 1－5）。

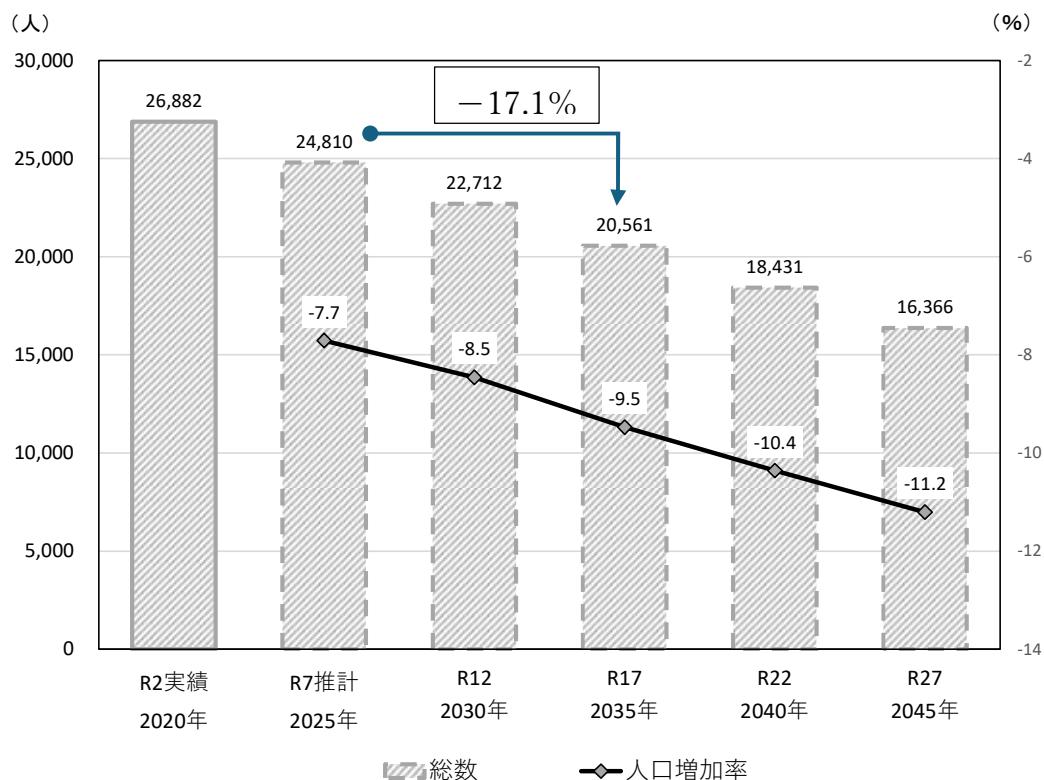
図表 1－5 区別の人口と世帯数の推移・増加率

区名	H27/3/31 2015				R2/3/31 2020				R7/3/31 2025				H27⇒R7 2015⇒2025 増加率(%)			
	世帯	男	女	計	世帯	男	女	計	世帯	男	女	計	世帯	男	女	計
鷺巣	173	271	284	555	174	247	264	511	176	229	236	465	1.7	-15.5	-16.9	-16.2
駅前	140	188	205	393	133	169	186	355	135	156	166	322	-3.6	-17.0	-19.0	-18.1
北小倉	129	209	236	445	129	186	219	405	126	167	186	353	-2.3	-20.1	-21.2	-20.7
南小倉	73	126	130	256	83	118	127	245	81	110	110	220	11.0	-12.7	-15.4	-14.1
西小倉	164	246	243	489	164	227	225	452	169	207	197	404	3.0	-15.9	-18.9	-17.4
有尾	35	67	65	132	37	61	67	128	33	52	56	108	-5.7	-22.4	-13.8	-18.2
田	55	90	97	187	53	73	88	161	59	78	90	168	7.3	-13.3	-7.2	-10.2
横屋	38	70	70	140	40	61	62	123	43	60	61	121	13.2	-14.3	-12.9	-13.6
若宮	48	66	73	139	48	60	60	120	48	54	50	104	0.0	-18.2	-31.5	-25.2
船見	19	34	37	71	21	29	32	61	19	23	26	49	0.0	-32.4	-29.7	-31.0
一色	104	156	178	334	114	151	159	310	105	123	148	271	1.0	-21.2	-16.9	-18.9
合計	978	1,523	1,618	3,141	996	1,382	1,489	2,871	994	1,259	1,326	2,585	1.6	-17.3	-18.0	-17.7

上多度地域まちづくり計画

- 人口推計の例では、養老町は令和7年から17年にかけて約17%減少すると予測されています（図表1－6）。
- 上多度地域においても、町全体の予測と同程度の減少が進むと考えられます。
- このため、町の課題と同様に、上多度地域においても人口減少対策や、人口減少・少子高齢化に対応した地域社会の形成を進める必要があります。

図表1－6 養老町の人口推計



(資料) 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」



1-3 アンケート調査結果

(1) 調査概要

①対象

- 役員：上多度地域自治町民会議の現役員・過去に務めた役員
- 上多度小学校PTA

②調査方法・回収結果

- 区長、小学校を通じて対象者に配布・回収

③調査時期

- 令和7年6月下旬～7月下旬

④回収数

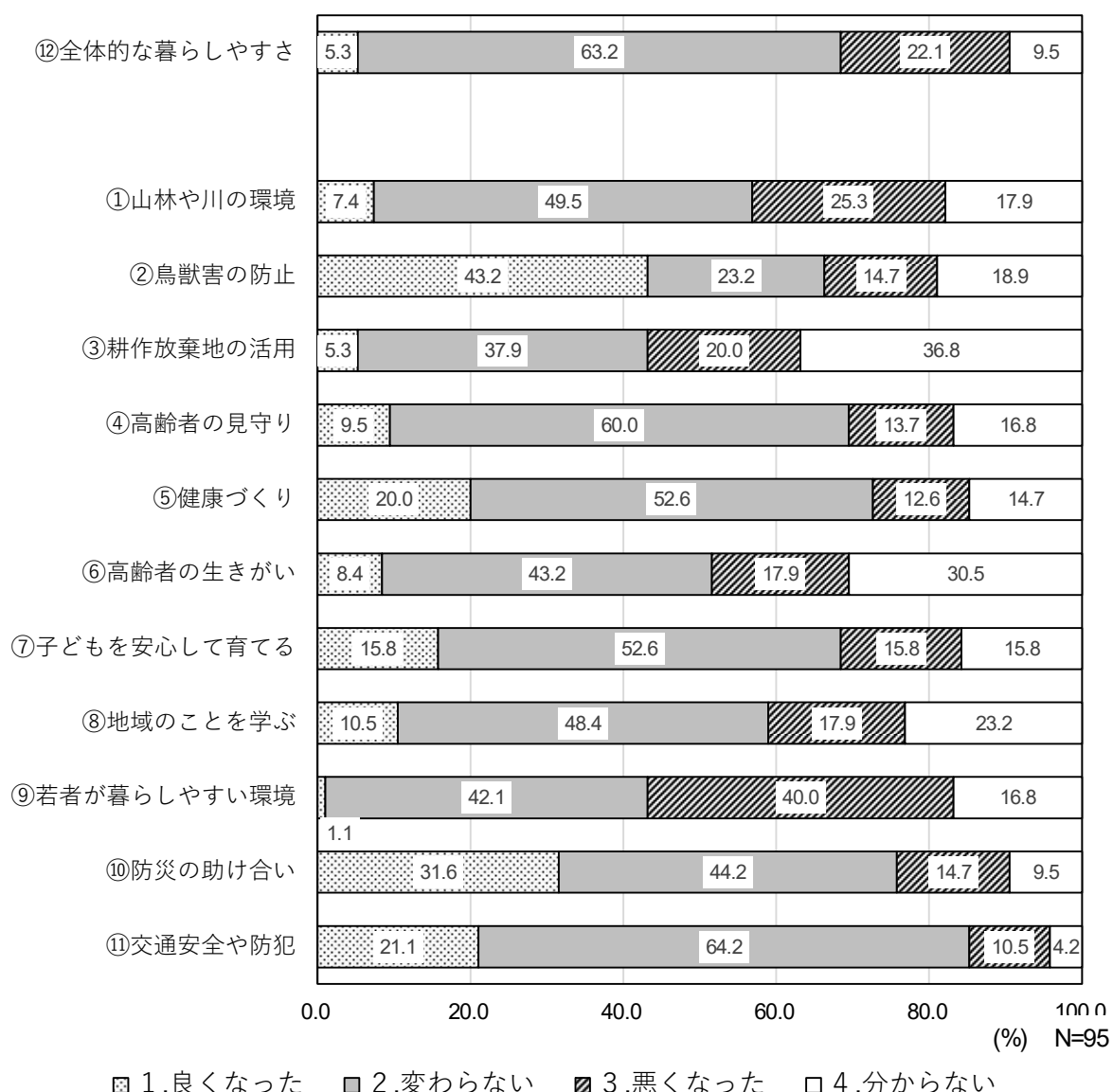
- 役員：95人
- PTA：49人

(1) 役員アンケート調査の結果

①10年ほど前と比べて、項目ごとに上多度地域に暮らしていて良くなった、悪くなったとお感じですか。

- 「⑫全体的な暮らしやすさ」については、「良くなった」が5.3%、「変わらない」が63.2%、「悪くなった」が22.1%です。「悪くなった」が「良くなった」よりも4倍ほど多くなっており、厳しい全体評価となっています（図表1-7）。
- 項目別では、「⑫全体的な暮らしやすさ」の結果と比較すると、「良くなった」は「②鳥獣害の防止」で最も多く43.2%、次いで「防災の助け合い」(31.6%)、「⑪交通安全や防犯」(21.1%)、「⑤健康づくり」(20.0%)が多くなっています。
- 「悪くなった」のは、「⑨若者が暮らしやすい環境」で40.0%と多く、「①山林や山の環境」(25.3%)は若干多くなっています。
- 「変わらない」は、「交通安全や防犯」(64.2%)や「高齢者の見守り」(60.0%)で多く、「⑫全体的な暮らしやすさ」と同じ程度となっています。
- このように10年前と比べて鳥獣害の防止や健康づくり、防犯などの安全にかかわることは良くなった評価が多く、高齢者の見守り活動などは維持されていると言えます。一方で、若者が暮らしやすい環境をはじめ、自然や農業の環境は悪くなったという評価が多くなっています。
- 健康づくり、高齢者の見守り活動などは今後も継続することが必要であり、また、若者にとっての環境などは大きく改善する工夫が求められています。

図表 1-7 10 年ほど前と比べた暮らしやすさ



※項目ごとの評価が加味されていると思われる最後の項目「⑫全体的な暮らしやすさ」を先頭に示す。
※横軸の値は四捨五入の結果であり合計は必ずしも 100% とならない。

②地域で特にお困りのことや、課題であるとお感じのこと

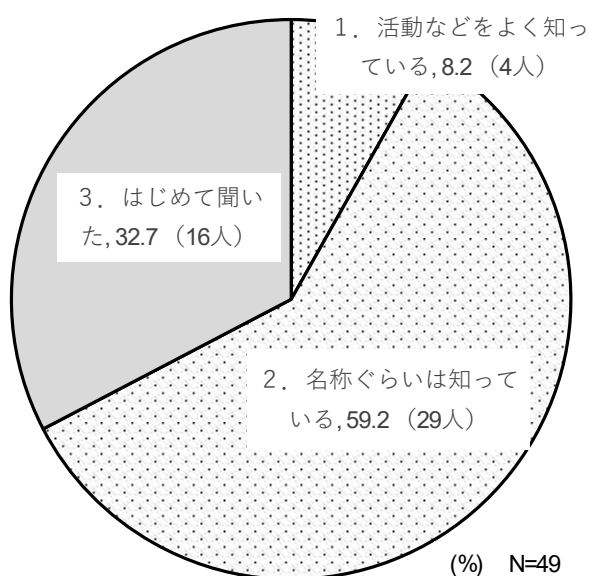
- 自由筆記回答の結果では、高齢化や人口減少に伴って、区などの地域組織の役員など人手不足が深刻になっているという声が多くなっています。また、地域に若い世代が少ないことや、若い世代が活動する場合の負担を上げる声もあります。
- 地域環境としては、空き家対策を求める声が多く、関連してソーラーの設置、農地の管理のあり方が課題として挙げられています。道路の整備や環境についても挙げられています。
- さらに、子育て支援や少子化、若い人の定住対策も求められています。

(2) P T A アンケート調査の結果

①上多度地域自治町民会議についてご存じですか。

- 「活動などをよく知っている」が 8.2% (4 人) と少なくなっています。(図表 1－8)。
- 「名称ぐらいは知っている」が 59.2% で、「活動などをよく知っている」と合わせて 70% 弱が地域自治町民会議について知っていますが、活動内容の周知を図ることが大きな課題です。

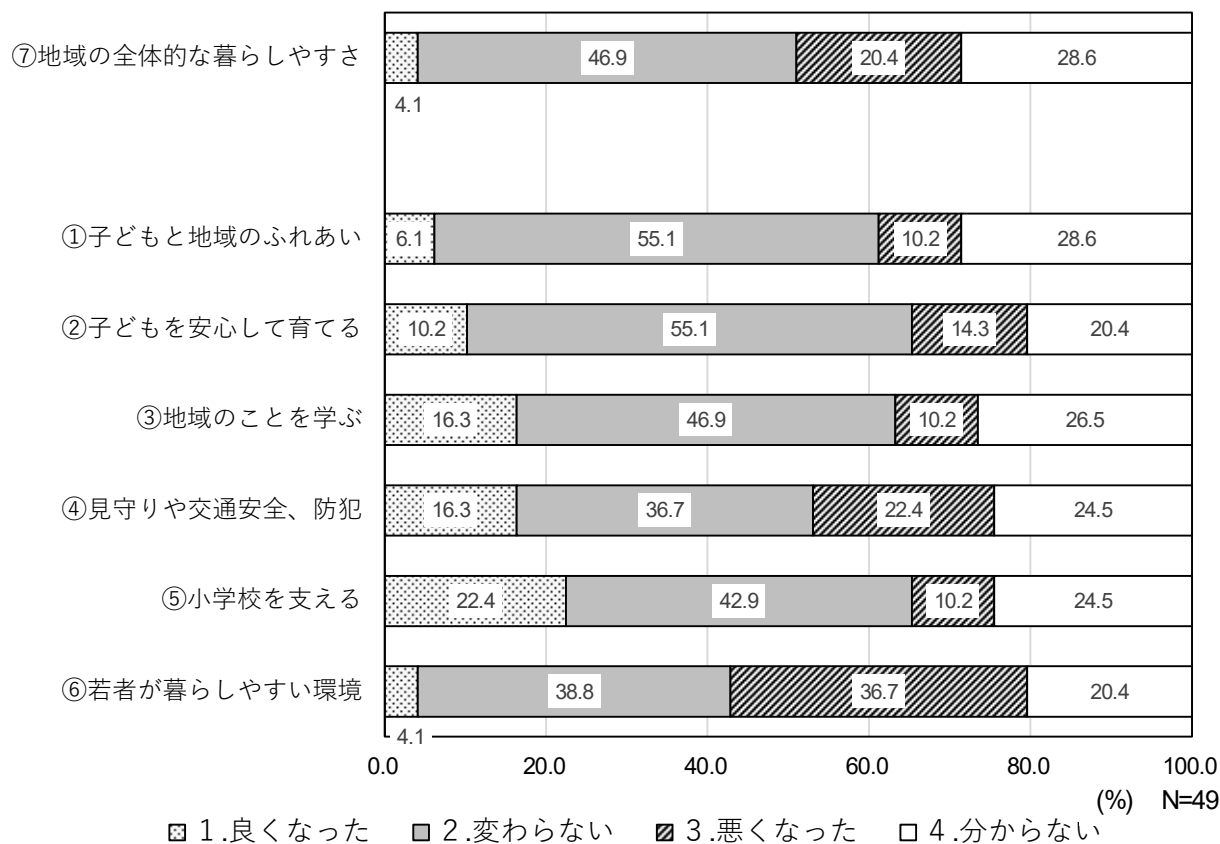
図表 1－8 地域自治町民会議の認知度



②10 年ほど前と比べて、項目ごとに上多度地域に暮らしていて良くなった、悪くなったとお感じですか。

- 「良くなった」が 4.1%、「変わらない」が 46.9%、「悪くなった」が 20.4%となっています。「悪くなった」が「良くなった」の 5 倍ぐらいになっています(図表 1－9)。
- 項目別では、「⑦地域全体の暮らしやすさ」の結果と比較すると、「良くなった」は「⑤小学校を支える」で最も多く 22.4%、次いで「③地域のことを学ぶ」と「④見守りや交通安全と防犯」(16.3%)、「②子どもを安心して育てる」(10.2%)が多くなっています。
- 「悪くなった」が目立つのは、「⑨若者が暮らしやすい環境」で 36.7%に達しています。
- 子育てや子どもにとっての環境はもちろんのこと、子育て世代や若者にとっての環境、地域全体の環境の改善が課題と考えられます。

図表 1－9 10 年ほど前と比べた暮らしやすさ



③子どもの生活や子育ての環境について特にお困りのことや、課題であるとお感じのこと

- 自由筆記回答の結果では、子どもや子育てにとっての環境として、子どもの遊び場や公園、集まることができる場の充実が求められています。
- 少子化を背景として、子どもの登下校の安全確保や、子ども会の運営や役員の負担についての声が多く、さらに上多度小学校の再編が課題という声もあります。

④地域活動に若い世代・若者の参加を促すためのアイデアについて

- 自由筆記回答の結果では、若い世代や子どもが参加しやすい活動・機会が必要という意見が多く、また、若い世代の意見を引き出す場を設けるというアイデアもあります。さらに、三世代や地域内の交流も求められています。SNSを活用すべきという意見もあります。
- 子ども会や地域組織について、活動が負担であり、再編を求める声があります。

第2章 上多度地域の主要課題

第2章 上多度地域の主要課題

(1) 計画の取組みの進捗状況

- 前計画で掲げた取組みの進捗状況について、役員・部会員の意見を把握した結果、おおむね進んだ活動と進まなかった活動は、次のようになっています（図表2-1）。
- 進んだ活動では、参加者を確保することができた鳥獣害対策や、子どもも参加したポイ捨て禁止の啓発活動、町民運動会、防災訓練などがあります。
- 一方、おおむね進まなかった活動では、草刈りや耕作放棄地の対策、見守り活動や高齢者の知恵の活用、ファミリー・サポートをはじめとする子育て支援や子育て環境の整備、若者の定住対策などがあります。

図表2-1 前計画の進捗状況の評価

基本方針	おおむね進んだ活動	おおむね進まなかった活動
1. 地域資源を生かした魅力と活力のある地域づくり	ポイ捨て禁止の啓発、資源回収、鳥獣害対策	草刈り活動、耕作放棄地対策、農業体験など
2. 多世代が交流して、健康で暮らせる地域づくり	町民運動会の再開、軽スポーツ、ふるさとウォーキング	隣近所の見守り、サロン活動、高齢者の知恵の活用
3. 子どもが育ち、若者が住みたいと思う地域づくり	美化、交通安全の啓発活動、花いっぱい運動	ファミリー・サポート、子育てサロン、ふるさと学習の工夫、若者の定住対策
4. 支え合い、助け合える安心・安全な地域づくり	防災訓練などの活動	見守り・防犯、自転車の安全対策
重 点	軽スポーツ、防災のための備品、勉強会、避難場所確認、マップ作成	子どもの遊び場確保、ふるさと学習

(2) 取組みの分野別課題

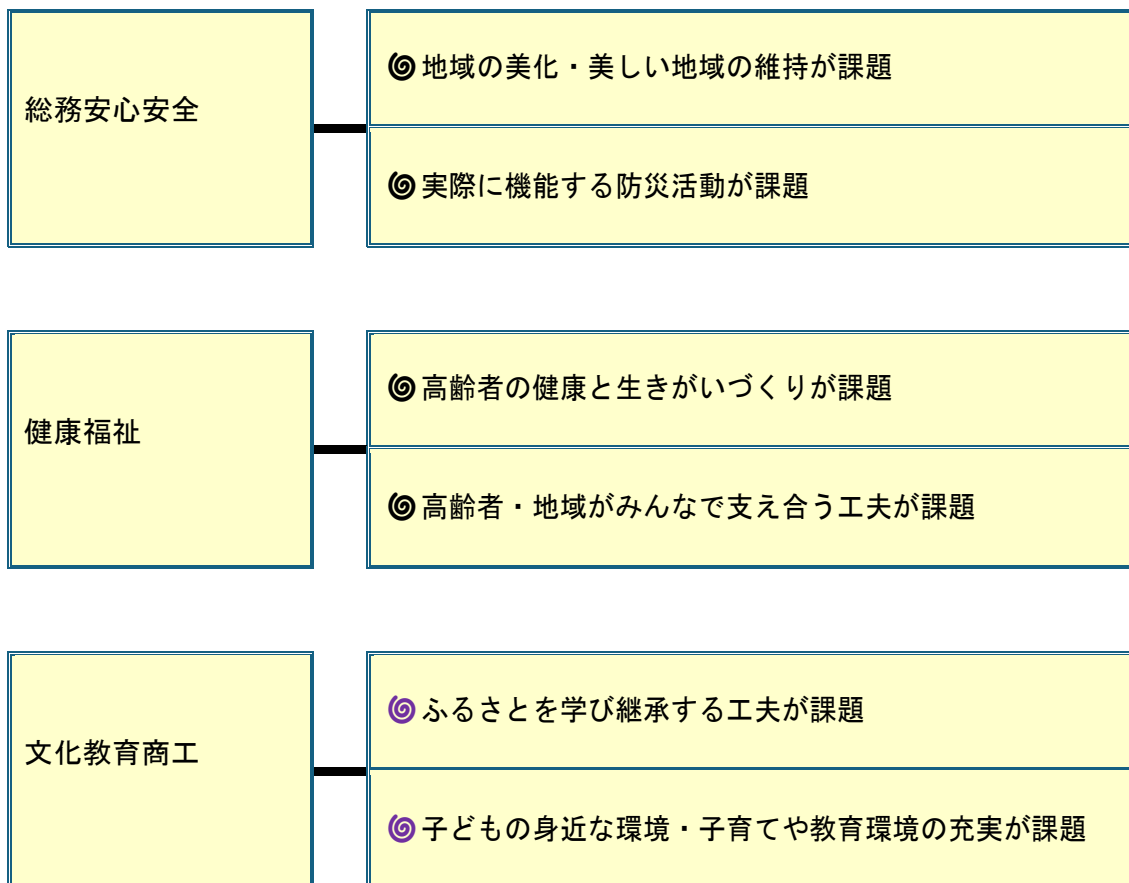
○アンケート調査結果と役員・部会員の意見から、取組みの分野（部会）別の課題を整理すると、次のようになります（図表2-2）。

図表2-2 取組みの分野（部会）別の課題

分 野	分 類	主な意見
総務安 心安全 分野	地域の 美化	美しい地域の維持、ポイ捨て防止、草刈り、耕作放棄地の増加、空き家の増加
	防災	防災マップの活用、防災訓練工夫・見直し、各地域での訓練の工夫、避難の対策、災害弱者への対応、防災についての情報提供・アプリなど、備蓄品・用具の充実と点検、消火栓の位置の確認、津屋川の増水、小倉橋の整備、防災隊の活用、発電機やトイレ・水の確保
	その他	有害鳥獣対策・柵の補修、若者の定住促進・婚活、暮らしやすさを考える
健康・ 福祉分 野	健康づくり の推進	（ラジオ体操）高齢者も参加する地区がある。ラジオ体操は暑くてできないという声。なかよしコートの管理が必要 （町民運動会）競技の内容の工夫を・やり方を考えるべき。コロナ明けで楽しかったという意見もあり。 （ウォーキング）町民会議は各区を支援したらどうか。 （軽スポーツ）地区ごとで開催した方が集まる。魅力がないと集まらない。 （老人クラブ）役員の負担が大きくなってきた。各区の集会所などで交流の機会づくりを
	高齢者の見 守り	社協や民生委員の活動に協力していく、一般も参加できるサロンを、各区で開催日などを工夫、女性の参加が多いがテーマが難しい、一人暮らしの人の情報・支え合い、高齢者の見守り、独居以外の高齢者への支援も必要
	その他	高齢者の技の伝承、コミュニケーションの減少が課題
教育文 化商工 分野	ふるさと学 習	地域や小学校が連携したふるさと学習、ウォークラリーで地域を知る、学校での地域人材の活用、地域の人材の発掘、伝統文化の学習と情報発信が課題、三世代交流・上多度プラザの活用
	子育て環境 の充実	子育て環境の充実、ファミリー・サポート（一時預かり）が進まなかった、資源回収は進んだ、学童保育との連携が課題、登下校時の見守りが課題、子どもの遊び場・集まることができる場が不足、学校の統廃合が心配
	子どもが楽し める機会	子どもに魅力があるイベントを開く（星空観察会、肝試し、ウォークイベントの工夫、盆踊りに代わるイベント）、養老公園・鉄道とのコラボ、子ども会活動のあり方
	三世代交流	お年寄りの人材活用・高齢者に子どもの遊びを教えてもらう、地域のつながりが希薄に、祭り・行事の簡素化で活気が低下
その他		地区の中の人顔が分からない・地区での交流が必要。負担が大きくならないように行事の工夫が課題、役員のなり手不足、役員を務める義務を果たす意識が重要

(3) 上多度地域の主要課題

- 以上の整理から、上多度地域の主要課題は、大きく6つにまとめることができました。
- この6つの主要課題を踏まえて、地域まちづくり計画を組み立てます。



3-1 計画期間

上多度地域まちづくり計画は10年先の将来を見据えたものとして策定し、計画の進み具合を確認しながら、5年後に、あるいは必要に応じて見直します。

【計画期間】

○令和8(2026)年度～令和17(2035)年度の概ね10年間を展望

3-2 計画の理念

③ 上多度の暮らしやすさを知って、みんなで継承していきます。

上多度地域は養老山地からの水の恵みを受けて畑地や水田地帯を育み、居住地を形成してきました。町の中心部や養老駅も近く、南北の幹線道路から各地への交通の便も良好です。都市的な環境ではないものの上多度の暮らしやすさを大切にしながら、人々の交流により活気を高め地域の良さをみんなで継承していきます。

③ 様々な考え方や価値観を認め合って、楽しく過ごします。

上多度地域においても核家族や共働きの家庭が増えており、住民の暮らし方や生活の価値観が多様化しています。また、住民の生活圏は自動車により広がっており、地域や隣近所でのつながりが希薄になっていると考えられます。こうしたなかで、お互いを尊重し絆を深め合って、みんなが楽しく過ごせるようにします。

③ 無理なく、可能な時間や場、方法でお互いを支え合っていきます。

高齢化や人口の減少は進んでいくと予想することができ、この状況に対応して地域の良好な暮らしや地域住民のつながりを維持していくことが必要です。このため、住民みんなが地域づくりに取り組み、また、一人ひとりが自分ができる地域での役割を果たして支え合っていきます。

3-3 上多度地域の将来像

多世代がふれあう彩り豊かな住みよいまち 上多度

○住民一人ひとりが輝き、子どもからお年寄りまでが楽しく暮らすことができるまちを目指します。

○自然と人、人と人のつながりを築いて、新たな活動が多彩に育まれる魅力あるまちを目指します。

第4章 3つの基本方針と横断的な方針

第4章 3つの基本方針と横断的な方針

- 主要課題を踏まえて、今後10年間に渡る3つの分野（部会）別に地域づくりの方針を定めます。
- さらに、3つの分野（部会）が共通して取り組む全体テーマとなる方針を定めます。

◎方針1. 安全な暮らしを築き美しい地域づくり<総務安心安全分野>

- 津屋川、積雪、大型台風などの風水害、南海トラフなどの地震に地域が一体となって日ごろから備え、緊急時も落ち着いて安全を確保できるようにします。
- 歩行者の安全を確保し、自転車や自動車の安全運転を徹底するとともに、犯罪者にねらわれないための目配りを強化します。
- 鳥獣害対策を続けるとともに、竹林の管理、河川敷や農地の美化を進めて、自然と共存した美しい地域をつくります。

◎方針2. 互いに役立ち健やかに暮らす地域づくり<健康福祉分野>

- 誰もが楽しむことができるように、町民運動会や軽スポーツの普及を図るとともに、ウォーキングの推進や高齢者が活躍する場を提供して、三世代のふれあいと交流を充実します。
- 隣近所や身近な地域で高齢者や子どもなどを見守るとともに、サロン活動を進めます。
- 独居老人の日常生活を支援するとともに、地域の支え合いのためにみんなが自分にできる活動を担います。

◎方針3. ふるさとを愛し伸びやかに育つ地域づくり<文化教育商工分野>

- 子育て世帯が安心して快適に過ごすことができる環境やつながりづくりを支援するとともに、子どもが健やかに育つ場を充実します。
- 上多度地域の歴史・文化、自然環境などを小学校と連携して学び継承して、優れた資源を生かして子どもや親子にとって魅力がある催しを開きます。



◎分野横断・全体テーマ 各分野が手をつないだ地域づくり

- 若者に魅力がある上多度についてSNSなどで情報発信を行うとともに、各地からサポーターや仕事をする人を集めます。
- 上多度に縁がある人や上多度のファンが二地域居住を営むことを促します。

第5章 取組みの目標と内容

第5章 取組みの目標と内容

5-1 安全な暮らしを築き美しい地域づくり＜総務安心安全分野＞

【目 標】

○災害時への備えを日ごろから地域が一体となり進めており、災害時の避難など緊急時にみんなが備えるようになっていきます。

◆SDGs目標11

住み続けられるまちづくりを



○森林や川を管理しており、ごみのポイ捨てや雑草が茂り過ぎているところがない美しい地域となっています。

◆SDGs目標15

陸の豊かさも守ろう



◆目標指標

アンケートと代表的活動	R7年	R12年	R17年
「山林・河川などの自然環境の保全・活用」について10年前と比べて「良くなった」	7.4%	10%	15%
防災訓練や勉強会の開催	各区1～2回／年	各区2回／年	各区2回／年

※アンケートは1-3と同様の項目で、令和12、17年に実施することとします。

【取組み項目・項目】

5-1-1 安全に暮らすことができる日ごろの活動

安全な暮らしのために風水害や地震に住民一人ひとりが備えるとともに、日ごろから災害に備えるために地域のコミュニケーションを確保して、効果がある防災活動を充実します。また、高齢者や子どもを交通事故から守るとともに、犯罪者に狙われない地域づくりを進めます。

(1) 防災・減災学習の充実

◆防災勉強会の開催 ▼1 : 取組み項目の通し番号

防災訓練や様々な活動の機会を使って、伊勢湾台風など過去の災害や近年の雪害、南海トラフ巨大地震などに対する防災や減災についての勉強会を継続的に開催します。

◆防災マップの周知と活用 ▼2

D I G（地域の防災対策を考える訓練 Disaster Imagination Game）を経て作成した防災マップを住民に周知するとともに、それを活用して避難すべき場所や避難経路の確認、再検討などに生かします。

（２）防災訓練の充実

◆防災訓練の工夫と開催・町のマニュアル等の活用 ▼3

防災訓練の内容を住民が参加したくなるように工夫するとともに、町のマニュアル等を参考にして活用して訓練のプログラムを充実します。

◆避難経路の周知と災害弱者の支援 ▼4

災害時の避難経路について防災訓練などと合わせて、住民によく周知することができるようにし、隣近所などの避難行動要支援者を支援できるように備えます。

（３）人材確保や防災体制の確立

◆防災拠点・設備の充実 ▼5

防災拠点である上多度プラザ等の周知を図るとともに、緊急時や復興に備えた貯水や資機材、備蓄品など設備の充実を図ります。

◆消防団の人材確保・体制の充実、各区での防災対策徹底 ▼6

消防団４分団の人材確保のために機能別団員等の募集など体制の充実と、地域防災組織の充実や各区での防災対策の徹底を図ります。

（４）交通安全・防犯対策の充実

◆交通安全の啓発・危険箇所の解消 ▼7

地域住民や通行車両のドライバーに交通安全の徹底を啓発するとともに、見通しが悪く交通量が多い通学路などの危険箇所を確認してその解消に務めます。

◆登下校時の見守り・防犯パトロールの実施 ▼8

散歩や移動のついででも登下校の見守りにできるだけ参加者を増やすとともに、防犯パトロールを実施します。

◆街路灯の促進、防犯カメラの設置の検討 ▼9

防犯灯を設置する位置を地域で調整して設置の促進とＬＥＤ化の促進を図るとともに、費用に留意しながら防犯カメラの設置を検討します。

５－１－２ 自然環境・地域環境の保全と向上

かけがえのない自然を手入れしたり農産物を守るために、鳥獣害対策を継続します。快適な暮らしを維持するためにポイ捨て防止の推進や、ごみをできるだけ出さない生活に心がけます。草刈りなどによる地域の美化を進めるとともに農地の管理を促します。

（１）鳥獣害対策の充実

◆防護柵の設置・維持管理、猟友会との連携 ▼10

上多度地域で設置を進めてきた防護柵の充実や維持管理を進めるとともに、猟友会や町との連携を図り狩猟の体制を整えるなど、地域ぐるみで鳥獣害対策を進めます。

（２）ポイ捨て防止、草刈りによる美化

◆ポイ捨て防止の啓発 ▼11

ポイ捨て防止のための看板の管理や、ウォーキングなど催しの機会にポイ捨ての監視を啓発します。

◆地域の草刈り・美化の推進 ▼12

河川管理者と連携した津屋川河川敷などの草刈りや日ごろからの美化、周辺環境の悪化も招く竹林の伐採、耕作放棄地の管理啓発を進めます。

◆小学校と連携した資源回収 ▼13

地域自治町民会議と上多度小学校が連携して資源回収を続けます。

◆農地所有者への管理啓発、レンタル耕作地の検討 ▼14

営農組合とともに農地の管理や活用について農地所有者に啓発して、レンタル耕作地などの事業を検討します。

5-2 互いに役立ち健やかに暮らす地域づくり

【目標】

○誰もが健康づくりや見守り、支え合いの活動に参加しており、できるだけ元気に自立して生活しています。

◆SDGs目標3
すべての人に健康と福祉を



◆目標指標

アンケートと代表的活動	R7年	R12年	R17年
「高齢者の見守り」について10年前と比べて「良くなった」	9.5%	15%	20%
高齢者サロンの開催	—	各区で開催	各区で開催

【取組み項目・内容】

5-2-1 高齢者やみんなの生きがいづくり

地域住民の健康づくりと親睦・交流を深めるために、町民運動会や軽スポーツ等を継続します。高齢者から協力者を募り、その知恵を生かすとともに、高齢者の生きがいになるような三世代交流を充実します。

(1) 町民運動会、スポーツの推進

◆町民運動会の工夫 ▼15

町民運動会の内容を充実して、準備や開催、参加しやすい上多度地域の交流の機会として継続します。

◆軽スポーツの普及、ラジオ体操の工夫 ▼16

健康づくりとふれあいのための軽スポーツ（ペタンク、グランドゴルフなど）の普及を図ります。ラジオ体操は開催場所などを検討して継続することを目指します。

(2) 三世代交流の推進

◆ウォーキングと見回り活動の推進 ▼17

各地域などで健康づくりや交流のためにウォーキングを充実し、同時の地域の環

境を見守るなどの活動を進めます。

◆高齢者人材のバンク、三世代交流サポーターの確保 ▼18

高齢者が特技などを生かすことができるように情報を登録し、高齢者人材を活用した三世代交流などにも活躍してもらうサポーター等を確保します。

◆三世代交流の円滑な推進 ▼19

三世代ふれあい祭りを開催しやすく参加しやすく工夫するとともに、時代にあった行事を開催します。

5-2-2 身近なふれあいと支え合いの充実

高齢者が楽しく安心して暮らし続けることができよう、サロン活動や高齢者の見守り、日常生活の支援など、地域のみんなが役割を果たし、支え合う活動を進めます。

(1) 高齢者のつながりづくり

◆サロン活動の推進 ▼20

高齢者同士の交流や地域、三世代との交流を目指したサロン活動を上多度地域内に広げます。

(2) 高齢者の生活や自立支援

◆高齢者の見守りと生活支援 ▼21

一人暮らしのひきこもりを防いだり、安否確認するなどの見守りや相談活動を進め、ごみ出し、移動の支援や悪徳商法・詐欺の防止など日常生活の中での困りごとを解消します。

◆地域福祉活動の推進 ▼22

住民みんなが生活の悩みを相談しやすくするとともに、自らできる支え合いのための活動に参加する地域福祉活動を進めます。

5-3 ふるさとを愛し伸びやかに育つ地域づくり

【目 標】

○子育ての仲間が増え、快適に子育てすることができ、子どもが健やかに過ごすことができるための環境が良くなっています。

◆SDGs 目標3
すべての人に健康と福祉を



○子ども達が安心して過ごすことができる環境が充実するとともに、ふるさとを地域のみんなと楽しく学んでいます。

◆SDGs 目標4
質の高い教育をみんなに



◆目標指標

アンケートと代表的活動	R7年	R12年	R17年
「子どもを安心して育てる」について10年前と比べて「良くなった」*PTA	10.2%	15%	20%
ふるさと学習等の開催回数	—	年3回	年6回

【取組み項目・項目】

5-3-1 子育て・子育て環境の充実

子どもが健やかに過ごし、また、子育てを安心して行うことができる環境づくりとして、子どもの一時預かりの体制の充実や子ども会の運営を図り、また、身近なミニ公園の管理や集会所、あるいは上多度プラザを活用します。

(1) 子育ての支援

◆子どもの一時預かり・居場所の充実 ▼23

地域との連携や大学などを活用することにより、ファミリー・サポートの人材確保や学童保育（のぞみ教室）と連携して、子どもの一時預かりや居場所を充実することを検討します。

◆子ども会の負担軽減・地域による支援 ▼24

子ども会運営のための役員の負担を減らし、地域が支援して子ども同士の交流や地域と子どもとのふれあいを創出します。

(2) 子どもの遊びと集いの場の確保

◆ミニ公園の管理 ▼25

子どもの身近な遊び場や憩いの場となる小さな広場や公園の草取りなどの管理を進めます。

◆集会所、上多度プラザの活用 ▼26

集会所や上多度プラザを三世代交流、子ども食堂、高齢者や子育て世代のためのサロン、ふるさと探訪講座などの開催に活用します。

5-3-2 ふるさとを知り愛着を高める活動

ふるさとを知り郷土愛を深めるために、地域の歴史文化や自然など上多度ならではの資源を発掘しながら学ぶ機会を持ち、子ども達と住民が地域の良さを見出すようにします。

(1) ふるさと学習の充実

◆ふるさと探訪とコミュニティスクールの推進 ▼27

子ども達、親子が、地域の人とともに上多度の歴史文化や自然、名所、地域の環境の良さを学び合い継承します。

(2) 子どもが楽しめる機会の充実

◆自然観察会、祭りや各種イベントの開催 ▼28

森林や川、星空などの観察会や、みんなが楽しみながら手づくりの祭りやイベントを開催します。

<分野横断・全体テーマ>

5-4 各分野が手をつないだ地域づくり

【目標】

○地域の魅力が高まり若い世代が住み続けたり、ほかの地域や市町村から来訪する若者との交流が盛んになっています。

◆SDGs目標3
すべての人に健康と福祉を



◆目標指標

アンケートと代表的活動	R7年	R12年	R17年
「若者が暮らしやすい環境」について10年前と比べて「良くなった」*PTA	4.1%	10%	15%
取組みによる関係人口（地域外からの参加者）の数	—	延べ50人／年	延べ100人／年

【取組み項目・項目】

5-4-1 住みやすい環境の維持と若者の定住・関わりづくり

若者の定住対策としては、まずは、今住んでいる若者が住み続けることができるような住みよい環境を維持します。地域の魅力をうまく情報発信して、同時に上多度に訪れて住民と交流し、一緒に活動に取り組むことを通じて、移住にも結び付けます。

◆若者向けの情報発信の検討 ▼29

地域内や上多度地域の出身者など地域外の若者に対して、上多度の良さを若い住民により情報発信するしくみを検討します。

◆上多度ファンづくりの検討 ▼30

上多度サポーター、上多度留学：農業、森林管理、創作体験ノマド・プロジェクトの検討（ノマド：場所を選ばずWebやパソコンで仕事する人）、Yoroffice活用のしくみの検討して、交流人口、関係人口を増やし、二地域居住を促進します。

上多度のファンになった人や、上多度出身者が訪れやすい環境や活動を創出することにより、地域の住宅や資源が二地域居住のために活用されるようにします。

第6章 計画推進の工夫

第6章 計画推進の工夫

6-1 町との協働の推進 :提案例

地域のみでは進めることが困難な大きな課題について、町と役割分担しながら取り組みます。

町からの要請に対して地域が役割を果たすことや、地域から新たな取組みを提案するような相互の関係を充実します。

関連する取組みの状況を踏まえながら、町に順次提案していきます。

図表6-1 協働の取組みの提案例

協働の取組み（例）	内容イメージ
町と綿密に連携した空き家対策	・ 空き家やその対策についての情報を充実するとともに、地域で居住者、住まいの状況を把握する。 ・ 空き家所有者への管理や取壊しの啓発、活用可能な空き家の見学会やリノベーションなどを進める。
移住定住の促進など人口減少対策	・ 地域としてのイメージアップや地域の魅力についての情報発信、各種の催しを行う。 ・ 養老のファンづくり、地域との関係づくり、ファンや出身者の二地域居住など、多彩な対策を検討する。 ・ 町とともに、移住の相談や希望者のサポートを行う。
大規模災害への備え	・ 砂防ダムの整理、堤防改修などは町と地域で県に事業を要請する。 ・ 防災のための設備の確保、上多度プラザの防災拠点としての充実、地域内の一時避難場所や防災倉庫の充実を図る。
企業誘致	・ 地域生活を支える商業機能、雇用を創出する製造業やサービス業等の多様な企業（事業者）の誘致を検討する。 ・ 誘致の候補地や場所などを土地所有者の意向を踏まえて検討するとともに、各種の誘致活動を進める。
小学校統廃合による地域活動等の検討	・ 小学校の統廃合に伴い、その後の地域活動等について検討する。

6-2 計画の進捗管理

(1) 計画の周知

- 地域自治町民会議や計画について、地域自治町民会議と区が地域住民へ広報・周知を徹底します。
- このため、「かわら版」を定期的に発行するとともに、掲載する情報コンテンツ、デザインなどについて、制作するスキルを持つ住民を募集するなど、内容の充実を図ります。
- 地域自治町民会議は養老町のホームページで各地域の計画などが紹介されていますが、上多度地域独自のホームページの立ち上げを検討します。

(2) 計画の定期的な振り返りと修正

- この計画は 10 年間の指針として策定しますが、取組みを一気に進めることは難しいため、各部会などで取組みの中の優先的なもの、取組みごとのスケジュールなどを想定する必要があります。
- 計画で目指す将来の姿を達成するためには、毎年、活動の状況を振り返るとともに、取組み内容の軌道修正を行います。
(「PDCAサイクル」：計画⇒実行⇒チェック⇒改善)
- 3～5年程度を経た段階で、成果指標としても掲げている本計画策定時の役員・元役員などを対象としたアンケートを実施したり、住民の意見を聞いて、計画内容を的確に見直します。

6-3 地域自治町民会議の体制の強化

- 地域自治町民会議、各団体の体制・活動を見直します。(区の実情に合わせた地域活性の会の見直しなど)。各団体の困りごとを気軽に相談し合い町民会議と各団体との綿密な連携を図ります。
- 区が行っている良い活動をお互いに学び、取り入れて広げます。
- 人材の確保、「子どもみらい会議」(三世代交流などの提案)の開催を検討します。
- 無理なく、かつ、楽しく効果的に「オール上多度」で、まちづくりを進めます。

